

世界工学団体連盟 World Federation of Engineering Organizations (WFEO)

概要

2021年10月
日本学術会議

WFEOとは

WFEOは、約100か国の工学協会を結集し、世界中の3,000万人を超えるエンジニアを代表する組織

1968年、世界中の50の科学技術協会の代表者が国連教育科学文化機関（UNESCO）の支援の下に集まり、世界工学団体連盟（WFEO）を設立

メンバー

100カ国
学術団体



12
国際
ユニオン

13
Associate
Members

ガバナンス

事務局

総会

- 全メンバーで構成・2年毎開催

理事会

- メンバーから選出・年2回開催
- 運営方針・戦略・予算等策定

常設委員会

- メンバー国からホスト国選出
- 10分野の常設技術委員会



WFEOの社会への貢献

ビジョン

WFEOは人類の利益のために、加盟国およびその国際的な専門機関と協力し、グローバル及び地域的な課題を建設的に解決するための、工学技術の開発と適用に努める

WFEO Engineering 2030 Planにおける主な行動原則

- ・工学の必要性を広報し、若者に工学を職業として選択するよう促す
- ・工学教育における適切な基準を確保する
- ・国際基準に準拠する各国の工学教育システムの強化
- ・ガバナンスを含む工学教育と専門資格の認定のためのシステムの開発
- ・エンジニアの国際的モビリティを促進するための国際的合意と資格の多国間相互承認の支援

主な貢献

国際機関への参画

- ・ UNESCOと"UNESCO-WFEO Paris Declaration"を締結し、SDGs推進への世界の工学界の貢献を示した
- ・ UNESCO Engineering Reportの作成に重要な役割を担った

若手、女性技術者の育成及び活躍の促進

- ・ 2つの常設委員会(Women in EngineeringとFuture Leaders)において若手・女性技術者育成のための活動を世界的に展開

SDGs達成への貢献

- ・ 10の常設技術委員会(Energy, Environment, Disaster Risk Reduction等)すべてにおいてSDGs達成に向けて関連する国連機関と連携して活動

日本学術会議・日本の科学者による ISCへの貢献

組織運営への人的貢献

2013-17 小松利光会員(九州大学名誉教授): 副会長兼災害リスク管理委員会委員長

2009-13 石井弓夫特任連携会員((株)建設技術研究所相談役): 副会長兼災害リスク管理委員会委員長

財政的貢献

- 分担金の拠出 (WFEOでは各国の分担金は国連分担金算出方法に準拠)

学術的貢献

- 学術会議の開催・共催(例:2015年世界工学会議(WECC2015)の開催)
- 各活動への参加

例 WECC2015の開催

- WFEOと日本学術会議共催により2015年に世界工学会議を京都で開催した。約70か国から3,000人以上の参加を得て、近年最大規模での開催となった。皇太子殿下(当時)のご臨席を賜り、関係閣僚等多くのVIPの参加を得て、日本の工学界のプレセンスを世界に示すとともに、SDGs推進への工学界の貢献を示すことができた。



第5回世界工学会議開会式でおことばを述べられる皇太子殿下(国立京都国際会館(京都市))
(写真:京都府)